雑　感

独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
増　田　政　久

本号の総合医学会報告は循環器疾患の最新先進医療－ナショナルセンターとの連携－である．私も心臓血管外科医の一人として興味深く読ませていただいた．循環器病は人口の老齢化に伴い，脳血管疾患，冠動脈疾患をはじめ大動脈，末梢血管疾患に至るまで増加傾向にあると言われてから久しく，またそれに対応する医療技術の進歩には目を見張るものがある．自分の理解の限界を超えたものもあるし，今後さらにITを駆使した診断・治療技術が増えることは容易に予想できる．しかしそれらの診断・治療技術を万一，私を含めた今いるスタッフが修得し，近隣地域の患者に近い将来，確実に提供できるようになったとしても，その時にはすでにさらなる新しい技術が開発され，今までの技術が標準化し，最新とは言われなくなるのである．こうした流れは別に最近のことではなく，今までの医療技術の進歩も同じ過程であったと思う．しかしそのスピードが社会の情報化がすすむにつれて格段にアップした．

最新医療にはとかく目が行きがちであるが，現在標準化され，それほど珍しくもない技術を基礎に現在の臨床現場は成り立っているわけだが，その標準化された技術を一定以上のレベルでこなし，保つことにもかなりの努力が必要であるし，各病院レベルで若い人たちにそこまでの経験を積ませることは一朝一夕ではできない．そこにもってして医療の効率化といったコスト意識や地域内での患者獲得のための競争意識をもつことまで考えると，大変な労力と時間を要する．また卒後研修医の将来動向を見ると，消化器外科や心臓血管外科の志望者が確実に減っているのも，気がかりである．地域での医療の集約化も行われつつあり，その中で生き残っていくためにも人材確保，教育を含めたネットワーク内での有益かつ建設的な交流の推進を考えることを是非お願いしたいものである．